

書評

新人看護師の
成長を支援する OJT

- 著 西田朋子
- 定価 本体 2400 円＋税
- 発行 医学書院

評者

虎の門病院 看護部次長（教育担当）
福家幸子

新人看護師指導に役立つ知識が
コンパクトにまとめられた待望の1冊

見よう見まねで教育を担う不安

看護基礎教育課程で「教育学」を学んでくる人は少ない。カリキュラムに教育学が含まれていたとしても、基礎的な理論を座学で学んでくる程度と思われる。教育実践まで経験して看護師となった人はほとんどいないだろう。

しかし、卒業後、看護師として就職し、数年経てば、多くの人が「実地指導者」「プリセプター」「メンター」などの肩書で後輩育成の役割を担うようになる。ここで初めて、教育学の知識を何も持ち合わせていないことに気づいたり、とりあえず見よう見まねで指導を始めたりすることになる。

私も初めてプリセプターを任命された時に「どうしよう」と思ったことを、かなり年月の経った今でもよく覚えている。そもそも何をすればよいのか、当時乏しかった参考資料の行間にまで目を凝らし、何かヒントが隠れていないか必死に読み取ろうとしたことを記憶している。それほど教育や指導について何も分かっていなかったし、自信もなかった。

その後、看護分野以外の文献にも目を向けることを覚え、コーチングや企業内教育などビジネス書を参考にするようになった。またプリセプター経験も契機となって、教育に関心を持つようになり、大学院で看護教育学を改めて学ぶ道を選択した。こうして各方面で私が少しずつ学んで継ぎ合わせてきたツギハギの知識が、本書にはコンパクトに収載され、新人看護師指導に役立つ部分が分かりやすく解説されている。新人指導者にとっては待望の1冊と言えるだろう。

新人の成長過程を楽しむために

本書の特徴は、まずとても優しく平易

な語り口で、新米の指導者に教育学の基礎知識やコツを伝授している点にある。知識や経験が浅い人が読んでもずっと内容に入っていけるよう配慮されている。

また、要所で背景となる理論が分かりやすく噛み砕いた形で散りばめられている。教育学の専門書を手にとっても、目の前の実践と結び付けて考えるのはなかなか難しいものであるが、本書は教育経験のない臨床看護師の目線に立って、理論や知識を実践と結び付けやすくなるように丁寧に解説されている。

このような語り口の背景には、著者が、新人看護師と指導者側双方の思いを今まで受け止めてきて、それぞれの事情を分かった上で、新人を理解して関わってほしいと願っていることが感じられる。臨床の指導者からすると、未熟な新人看護師を抱えながらも、本業は患者に看護を提供することである。よって、同僚でもある新人看護師が期待通りに成長してくれない場合、焦りを感じたり負担に感じたりしやすい。

本書では指導者側のこのような実情にも十分配慮され、「こうすべき」と押しつけるのではなく、現実的で実践可能と思える内容が書かれている。第2部の実践編では、各章末に『『理解』と『支援』にもとづく OJT 実行プラン』というチェックリストが設けられ、よりよい新人指導をしていく上で指導者がとるべき望ましい行動が一覧にまとめられている。各章を読んで指導者に求められる役割を理解し、このリストに上がっている行動を心掛ければ、新人をよりうまく自立まで導くことができるだろう。

新人看護師の指導にあたる人には、ぜひこの本を手にとっていただき、新人の成長支援過程を楽しんでいただきたい。